

【今月の問い】

Q. ニュースダイジェスト **2022年8月号** で紹介した以下の記事を読み、以下の①～③について考えよう。

結核「低蔓延」に

厚生労働省は、国内で2021年に結核との診断を受けた患者は1万1,519人で、人口10万人当たりの新規患者数を示す罹患率は9.2人だったと発表した。統計が残る1951年以来、初めて10人を切り、世界保健機関（WHO）の分類で「低蔓延国」となった。厚労省によると、国内で2021年に結核と診断されて死亡した人は1,844人。明治から戦前にかけては「不治の病」と恐れられ、最も死者が多かった1943年には17万人が亡くなった。貧しく栄養状態が悪いことで病気が広がったが、戦後、特效薬の登場や栄養状態の改善、感染対策によって患者は急激に減少した。しかし80年代以降、長期の潜伏を経て発病する高齢の患者が目立つようになり、減少のスピードは落ちた。その後、罹患率が高い水準が長く続き、主要7か国（G7）では最も遅い「低蔓延国」の実現となった。

（ニュースダイジェスト 2022年8月31日より）

① わが国において結核などの感染症の蔓延を引き起こさないためにはどうすればよいだろうか？

② 環境が整わない国に対して結核を予防するにはどうしたらよいだろうか？

③ エイズやマラリアなど、SDGs3番で指摘されているほかの感染症の状況はどうなっているだろうか？

※次ページの解説も参考にしよう！

今月のSDGs

※北九州市立大学 地域創生学群 教授 眞鍋和博先生に、ゴール3について解説いただきました。

3

すべての人に健康と福祉を



すべての人に健康と福祉を

新型コロナウイルスのパンデミックでは、学校に通うことができなかつたり、さまざまな行事が中止になったり、外出の自粛が求められたりと、私たちの日常生活が大きく制限されました。人間の日常生活には人と人との接点が日常的に存在しています。そこに病原菌が何らかのルートに乗り人から人へ感染することで、爆発的に感染者が拡大し、それに伴い深刻な状態に陥ってしまう人や死亡する人が出てきます。

そのような感染症は新型コロナだけではなくありません。例年冬になると流行するインフルエンザをはじめ、エイズ、マラリア、B型肝炎、そして結核なども人体に深刻な影響を与える感染症とされています。

SDGs3「すべての人に健康と福祉を」では、すべての人の健康と福祉の促進が目標として設定されています。妊産婦や乳幼児の死亡率を低下させること、薬物やアルコールの乱用による被害の根絶、交通事故や大気汚染での死亡者数を減らすこと、さまざまな保険サービスの充実などがめざされています。そして、結核感染者を減らすことが目標の一つとされています。結核は、肺などの臓器が結核菌に感染し、炎症を引き起こすことで死に至る可能性も高い深刻な感染症です。

SDGsでは、その成果を測定するための指標として、人口10万人当たりの感染者数が設定されています。新聞記事では、日本のこの数値が9.2人となり、人口10万人当たりの結核感染者数が10人を下回ったことから、「低蔓延国」と世界保健機関（WHO）から認定されました。とは言っても2021年1年間で1,844人が死亡していて、決して楽観視してよい状態ではないでしょう。

世界に目を向けると、感染への対策が十分でなく、状況が深刻な国々が少なくありません。2020年のデータを見ると、アフリカのレソト王国では、結核にかかる人が人口10万人当たり650人となっています。南アフリカやフィリピンでも約600人と多い人数です。その他、アフリカや東南アジア諸国を中心に深刻な感染症の一つとなっています。

日本では、結核の対策として予防接種が促進されていますが、予防や対策が十分にとられていない国々で感染者が多くなっていると考えられます。スラム街などの不衛生な生活環境で暮らす人が多かつたり、予防接種や治療に関する医療が発達していなかつたり、結核に関する知識が不足していたりすることなどが原因で、結核感染者を減らすことは容易ではありません。

グローバル化した社会では、感染症が拡大するスピードと規模が非常に速く大きいことを、新型コロナのパンデミックによって私たちは思い知らされました。国内での対策はもちろん、世界中に目を向けて対策を行うことの重要性を、改めて考えなければいけないでしょう。